中世から近世にかけて 高取藩城下町として栄えた土佐街道。

土佐街並みは、旧城下町の町家が 高取城へ一直線に向かう大手筋沿いに建ち並び、両側には水路が流れています。
現在でも、伝統的形式を残す建物が道に面して棟を平行に軒並みを揃え、外観は つし（屋根裏物置）二階建てで、連子格子窓を持ち当時の街並みの繁栄を偲ばせている。つし二階窓には、虫籠窓（むしこまど）や 細長方形窓などがあり、白壁・黒壁で意匠を凝らしている。
また、家と家の隙間に人が忍んで 行列を襲わないように、壁で塗込めたり 板を張ったりして 隙間ができないよう工夫したのが今も残っています。
阪神大震災の復旧工事で 出てきた路面電車の敷石が土佐町並みの石畳みとして甦り、ゆったりとした散策の演出に一役かっています。
石畳には、古代の高取で咲き誇った薬草が「薬草タイル」として埋め込まれ、散策する人たちの目を楽しませている。

藩主下屋敷表門（石川医院）

重厚な門構えは高取藩主の下屋敷の表門を移築されている。
現在は 皮膚科専門の医院として、秘伝の塗り薬が良く効き、町外からたくさんの患者さんが押し寄せています。

観光の拠点 夢創舘

高取城跡へとつづく街道沿いは、油屋・鋳物屋・呉服屋など500軒もの商家が軒を並べ、賑わいを見せていました。
夢創舘は、明治から大正にかけての呉服屋を改修し、町の観光案内所（土佐街なみ集会所）無料休憩所として、ギャラリーや資料の展示・地場産品販売など行っています。
城跡への行き帰りや街並み散策の憩いのスポットとして、観光客やハイカーに大変喜ばれています。
一服のご休憩に、木の温もりあふれる建物と、おいしい焙じ茶の無料サービスでお待ちしています。
また、池のある裏庭には、俳人・阿波野青畝（あわのせいほ）の句碑がある。

見どころ、立ち寄りどころ

国見櫓跡

高取城二ノ門跡から本丸に向かって数百メートル上がり矢場門跡手前を右折したところ、まさしく「国を見る櫓」眺望が実に素晴らしく、大和三山は云うまでもなく大和平野が一望でき、晴れた日には六甲山や比叡山まで見通すことができる。

岡宮天皇陵・斉明天皇陵

岡宮天皇陵を宮内庁は、草壁皇子の古墳として、ここを指定しているが、実際には束明神古墳が正解であるという説がかなり有力である。斎明天皇陵は、高取町大字車木にある丘陵の山頂にある。大田皇女の弟で、八歳で亡くなった舎人皇子も合葬されている。

大和清九郎の墓

「和州清九郎」といい 谷田村に生まれる。丹生谷村 にて成長、のち鉾立村（現大淀町）に居住。孝徳心は、ことの他深く今日まで賞賛され、碑石は居住村の丹生谷 鉾立峠にある。因光寺（丹生谷）の清九郎会館には、清九郎に関する文献や資料が数多く保存されている。

薬の町 高取の由来

薬となる動植物が豊富であった高取の山野にて西暦612年推古天皇が薬猟りを行ったと伝えられている。また寺院の施薬として用いられ修験者が大和の薬を全国に広めたのが大和売薬の興りで江戸時代には大和の薬を全国各地に行商するようになり、現在では「家庭の置き薬」としてお届けしています。「くすり資料館」にはくすりの歴史を伝える道具や資料を展示されている。

春秋の二大イベント

春
町家の雛めぐり
3月/1～31日

土佐街並みに80軒有余の「雛物語」が共演

勇壮時代絵巻 百名城の祭典

秋
日本100名城
たかとり城まつり
11月/23日祝

たかとりの観光ガイド

高取に訪れる皆様を『たかとり観光ボランティアガイドの会』がご案内します。
個人・団体に関わらず 5名様以上のグループ なら どなたでも お申し込み頂けます。
詳しくは、夢創舘 又は
http://www.takatori-guide.net/まで。

高取町への交通

土佐街道、高取城跡へは
近鉄吉野線「壺阪山駅」下車。
●大阪阿部野橋駅より 特急40分
●京都駅から 特急70分（橿原神宮前駅のりかえ）

電車 ■近鉄壺阪山駅 TEL0744-52-2049
■近鉄市尾駅 TEL0744-52-3125
バス ■奈良交通橿原営業所 TEL0744-22-6731

たかとり

歴史が薫る。ロマンが息づく。

巽高取 雪かとみれば 雪でござらぬ 土佐の城

大和平野からの高取城の遠景を歌うたもので白亜の大天守、小天守はじめ櫓の数27、門数33、塀の長さ2,900mと高取山中にながく連なる土塀と建物の白い色が、あまりにも見事だったことによる。
城代屋敷より太鼓櫓を望む 明治二十年頃撮影

高取町観光協会
〒635-0152 奈良県高市郡高取町上土佐20-2
TEL / FAX 0744-52-1150
http://www4.kcn.ne.jp/~musoukan/
E-mail : musoukan@m4.kcn.ne.jp

夢創舘 開館時間 ● 午前 9:30～午後 4:30
休 館 日 ● 月曜日（祝日の場合は翌日）

歴史が育み 心が和む ふれあいのまち…たかとり

高取城跡

南北朝時代、豪族の越智氏が高取山(標高583.9m)山頂にカキアゲ城として築く。
天正13年(1585)大和郡山城主豊臣秀長の命を受けた重臣本多正俊が入城し、大修築が始まる。これは本城としての大和郡山城の詰城として計画された。本多氏以後、譜代大名植村家政が 寛永17年(1640)居城となる。
1863年8月26日、尊王攘夷(そんのうじょうい)の天誅組約千人の攻撃にあったが大砲で簡単に撃退した。植村氏は、高取藩主として幕末1868年まで続いたが、明治4年廃藩置県となり、26年頃天守閣など建物は取り壊された。
高取城は城内と郭内に分けられ、城内は周囲が約3km、郭内は周囲約30kmの規模を誇り、平地から高低446mは難攻不落の視点からまさしく日本一の山城である。今も残る複雑な石垣に往時の威容が偲ばれる。 本丸から吉野・大峰などの山々が一望でき、春の桜・秋の紅葉の名所です。平成18年 日本100名城に認定された。(国史跡)

猿 石

高取城・二ノ門外、城下町に下る大手筋と岡口門の分岐点にあり、飛鳥時代・斎明朝(7世紀)と推定。実はこの猿石は高取城築城の際、石垣に転用するため明日香から 運ばれたと言われている。(高取町指定文化財)

壺阪寺(南法華寺)

西国六番札所。創建は 文武天皇大宝3年(703)法相大徳弁基上人の開基で、京都の清水寺の北法華寺に対して南法華寺といい、長谷寺とともに観音霊場として栄えた名刹である。現在の建物は 文政10年(1827)に建立されたもの。
十一面千手観音を本尊として祀り観音信仰の一大道場である。古くから眼病に霊験あらたかな寺として信仰され『壺坂霊験記』のお里・沢市の話はあまりにも有名。室町時代の三重塔は 本堂とともに国の重要文化財に指定されている。またインド政府から送られたデカン高原の花崗岩で造られた高さ20メートルの大観音がある。平成19年 壺阪大仏が建立された。

五百羅漢

壺阪寺から高取城跡につづく山腹巨岩に 彫られた無数の石仏がある。総称して香高山磨崖仏といい、室町中期に刻まれたもので本多氏が高取城築城の頃、石工に作らせたものとされる。

古 代

古代の高取町は、渡来系氏族の「東漢氏」と「巨勢氏」の2大豪族が割拠していました。
そして、彼らの先進技術で 飛鳥を開拓し、飛鳥朝廷を樹立する原動力となりました。
後に、中大兄皇子の命により 巨勢徳陀が 東漢氏を脱得し中大兄皇子を東漢氏が後ろ盾し、645年の大化の改新は成就するのです。この時代の有名豪族たちの古墳が高取にも数多く点在しています。

中 世

中世の高取町は、大和武士の一方の雄「越智氏」が、大和郡山市を本拠地とする「筒井氏」大和国の覇権争奪戦を繰り広げます。
日本屈指の山城「高取城」は、越智氏の山城としてこの頃建設されます。
高取に残る光雲寺は、この越智氏の菩提寺です。また、中世を代表する文化である能楽「越智観世」と謡曲「田村」が大いに流行ります。

古 墳

●日本の統一国家 発祥地の証しの一つとして高取町には、6世紀初~7世紀末にかけて築造された古墳が 実に大小800基におよぶと言われている。

束明神古墳

真弓岡広陵の東南部、佐田の春日神社境内にある。直径約60mの範囲で造成し、中央部に墳丘をつくった大規模な終末期古墳。凝灰岩の切石を積み上げた精巧な横口式石槨で 他に類例がない。
7世紀後半から末頃のものと推定される。
草壁皇子(天武天皇と持統天皇の皇子)の墓である可能性を秘めている。
(現在石室は見学できません)

市尾墓山古墳

墳丘の全長66mあり、古墳時代後期初頭(6世紀初)の前方後円墳、「市尾官司塚」とも呼ばれる。周濠、外堤跡もあり、玄室内には長さ2.7mの県下最大の刳抜式家形石棺が納められている。
古墳の規模や石棺の遺物から、古代豪族の巨勢男人(こせのおひと)の墓か。(国史跡)

宮塚古墳

市尾の天満神社の境内、社殿のすぐ北側にある全長45mの前方後円墳。後円部に横穴式石室が開口し、凝灰岩の刳抜式家形石棺が納められている。
(国史跡)

乾城古墳

貝吹山の南麓にある直径30mの円墳。
6世紀後半に築造された横穴式石室をもつ。(県史跡)

鑵子塚古墳

乾城古墳北西200mにある円墳。直径24m、高さ7mで6世紀後半後半に築造されたらしい。(県史跡)

郷土が生んだ叙情俳人 青畝(せいほ)の生誕地を訪ねる!

今も、居宅として利用されている青畝の生家

明治32年(1899)2月、阿波野青畝(あわのせいほ)は高取町大字上子島に生まれました。
青畝は少年期から耳が遠く、中学から進学を断念せざるを得ない絶望から『万葉集』をはじめ読書にふける毎日を過ごしました。これがのちの俳句創作に拍車をかけることになりました。

19才のときに「虫の灯に 読み昂(たかぶ)りぬ 耳しひ児」と詠んだといわれています。
畝傍中学時代に、郡山中学の英語教師・原田浜人に句作の指導を受けていて郡山に来遊中の高浜虚子と出会い 師弟の間柄になり、のちに高浜虚子から「耳の遠い児であるということが、勢い君を駆って叙情詩人たらしめた」と言われるほど耳疾そのものが、青畝の俳句にしみじみとした哀歓をただよわせるに至っています。
昭和3年、青畝の叙情性が最もよく表現された一句が「葛城の 山懐(やまふところ)に 衰釈迦(おとしゃか)かな」です。古くから多くの神話を持ち 修験でもある葛城山が持つ神秘的な光景から写生でありながら、その句は無限の広がりを持っています。まさに俳句の聖人でありました。この句が詩名となり、昭和4年1月、郷里の俳人たちの要請で『かつらぎ』を創刊し青畝は主宰となり、昭和を代表する俳人の一人となりました。

在りし日の
阿波野青畝

町内には、青畝の5つの句碑があります。
高浜虚子の門下で 水原秋桜子(しゅおうし)、山口誓子(せいし)、高野素十(すじゅう)とともに頭文字をとって四Sといわれた。

夢創館

長円寺

砂防公園

中央公園

子嶋寺

天平勝宝4年(760)孝謙・桓武天皇の疾病を癒した僧報恩が国家鎮護のために 建立したと伝えられている。平安初期には長谷寺と壺阪寺に次ぐ大和国の観音霊場とて信仰され、21坊の伽藍を誇っていた。
983年 興福寺の僧 真興(しんごう)が 住職になり、一条天皇の病気平癒の恩賞に賜った「紺綾地金銀泥絵両界曼荼羅図」2幅は平安前期の国宝。子嶋曼荼羅の名で知られている。また、謡曲「田村」発祥の地としても有名。山門は 高取城二ノ門を移築したもので、現存する唯一の高取城遺構。

小嶋神社

この神社には、雨乞い祈願成就で奉納された「ナモデ踊り」大型絵馬3点が残っている。
1723年から 約百年間の雨乞い・満願の際の踊りの風習の変遷をみごとに描いている。最も盛んであった太鼓踊りの江戸時代の姿を三期にわたって伝えてくれ、庶民の芸能を考える上で 大変貴重で全国的に 珍しく一級品と言われている。(県有形民俗文化財)

植村家長屋門

長屋門は、高取城の旧大手門通りに面しており、もと高取藩の筆頭家老屋敷で 江戸末期文政9年(1826)のもの。
なまこ壁が城下町の雰囲気を漂わせている。
現在も旧藩主植村家の居宅になっている。また、旧藩主下下屋敷のあった「ゴテンアト」は 長屋門正面の丘の上にあり、今も近くに数軒の武家屋敷がある。
(長屋門は県指定文化財)

宗泉寺

旧高取藩主 植村氏の菩提寺。初代藩主植村家政の邸宅だったが、他所に屋敷を新築し、元禄11年(1698)寺として創建。
高取藩は 江戸時代になって藩主は 植村家で 終始14代続く。8代目家長は老中になっている。初代家政は、関ヶ原のときにも徳川家康を支えた16人の武将(16神将)の一人であり、槍一筋の家柄です。
司馬遼太郎の「街道をゆく~大和・壺坂みち~ 植村氏の事」に書かれている。山号は 真各山宗泉寺といい、植村氏累代の墓碑がある。

光雲寺

南北朝時代初期(1346)豪族越智邦澄が自家の菩提寺として建立し、興雲寺と称した。
全盛の頃、能を大成した世阿弥の長男・元雅が越智氏をたより移住してきた。「能」の越智観世流発祥地でもある。その後一世紀をへて室町初期(1446)復興開基、以後越智氏の菩提寺として繁栄したが、越智氏の没落後わずかに余命をたもち天和年(1681)に再興、光雲寺となる。
御本尊の釈迦如来座像、脇仏として文殊菩薩、普賢菩薩が安置されている。 畳の部屋からの方丈庭園は 心字形の池に亀甲島があり 四季折々の景観を楽しませてくれる。山門前には、古木「厄除けの杉」樹齢千年に近い神木がある。(本堂は県指定文化財)

貝吹山城跡

中世の豪族であり、「太平記」の時代にも活躍した越智氏の城跡が貝吹山の山頂にある。もともとは越智谷の越智城に対する詰め城として築かれたが、後に本城となり、高取城へと発展した。山頂(210.3m)には 城跡の碑と 神社跡がある。